

滋賀医科大学看護学ジャーナル第5巻1号 査読者名

新井 龍	今本喜久子	上間 美穂	太田 節子	岡本 真優
川井 八重	倉田真由美	佐伯 行一	坂口 桃子	作田 裕美
高田 直子	瀧川 薫	但馬 直子	田畑 良宏	玉里八重子
植木野裕美	西尾ゆかり	秦 朝子	畑下 博世	菱田 知代
百田 武司	宮松 直美	三宅 依子	宮田 久枝	盛永 美保
安田 齋				

編集後記

滋賀医科大学看護学ジャーナル第5巻第1号を無事刊行する運びとなりました。投稿くださいました多くの皆様、労をいとわずご懇篤な査読をお引き受けくださいました先生方に感謝申し上げます。

大学や研究所が刊行する紀要の役割の一つに、その大学・研究所に所属する若い研究者のための成果発表の場であることが挙げられます。編集委員会では、研究論文の質の追求と同時に、この、「若手研究者が羽ばたく第一歩となりうる場の提供」を心に留めて作業を進めてまいりました。自己責任と自立がもてはやされる昨今ではありますが、生命体としても、生活体としても、人間が相対的に自立していただける期間はそう長くはありません。私たちは、誕生から成人まで、そして老いてセルフケアに困難をきたすようになってから死に至るまでは、誰かのケアに支えられて生きていくのです。では、生産年齢といわれる期間はまったく自立しているかと問われれば、否でありましょう。研究者の場合は特に自立への道は果てしなく長く、そして険しいのが現実でしょう。滋賀医科大学看護学科の若手研究者たちが、それぞれに学びあい、育ちあう切磋琢磨の場として、このジャーナルが活かされることを祈りつつ、今後とも皆様の一層のご支援とご鞭撻をお願いいたします。

作田 裕美

「滋賀医科大学看護学ジャーナル」編集委員会

委員長 安田 齋

委員 太田 節子 作田 裕美 盛永 美保 上間 美穂 高田 直子

表紙デザイン 高谷裕紀子